

## 平成28年度に建設工事で発生した事故事例（ 工具・資材 による事故）

【事故概要】水圧管（φ800）の設置工事（設置勾配約40%）において、設置経路上の上方側に、水圧管を縦方向に並べ仮置きしていた。作業員1名が、墨出しに支障となっていた6m管1本をずらすため、手で横に転がそうとしたところ、下方側に滑り出し、これを止めようと管の端部に手をかけたところ、下方にあった4m管との間に手を挟まれ負傷した。

また、6m管1本が滑り出したことにより、下方にあった4m管1本及び2m管1本が玉突き状態で一緒に滑落し、下方で作業していた別の作業員2名のうちの1名に衝突、負傷した。

### 【事故原因】

- ・現地条件（傾斜地）を踏まえた作業計画となっていなかった
- ・滑落した管について、仮置き時に固定していなかった
- ・上下作業を実施した

### 【改善対策】

- ・現地条件（傾斜地）に適合した作業計画を定める
- ・斜面に仮置きしている管の固定・解除・移動について手順書を定め作業員に周知徹底する
- ・上下作業の禁止

1



2



【分類】管渠工、据付

【被害状況】左示指不全切断 30日加療見込み、右大腿圧挫傷・右下腿挫創 全治3週間

## 令和2年度に建設工事で発生した事故事例（転落・墜落事故）

### 【事故概要】

排水管設置工において、被災者は砂を取りに行く途中、掘削開口部をまたぐ際にバランスを崩し転落、負傷したものの。

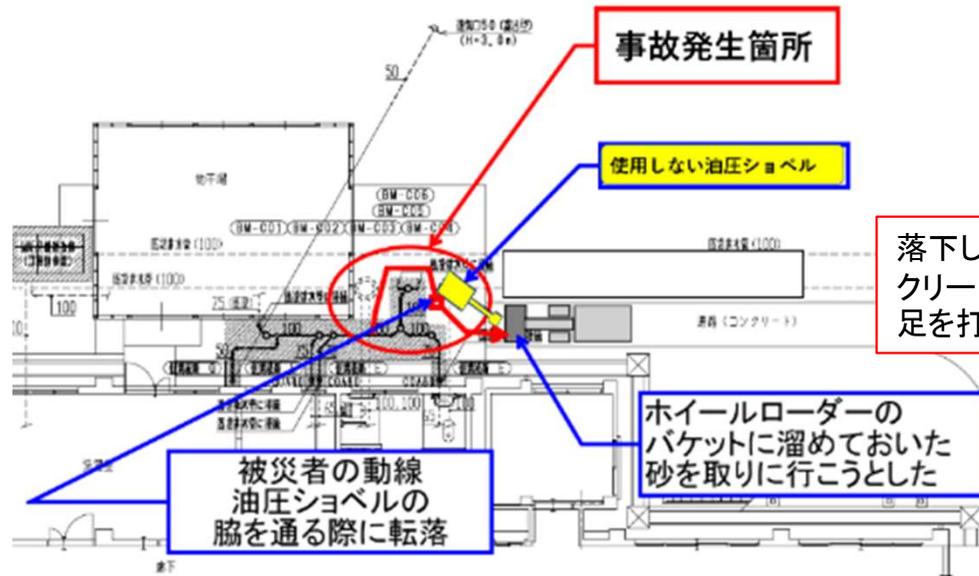
### 【事故原因】

- ・狭い現場内で、使用しない油圧ショベルの仮置き位置が不適切で、安全な作業用通路を確保していなかった。
- ・安全ミーティングで、掘削開口部への転落については、注意喚起をしていなかった。

### 【改善対策】

- ・掘削開口部周囲に。トラロープを張り、注意喚起を図る。
- ・使用しない重機の配置、機器の整理整頓により、作業用通路を明確にする。

事故状況図



事故状況写真



【分類】管渠工、据え付け

【被害状況】業者人身 1名 左脛骨高原骨折(3ヶ月の加療)

## 令和3年度に建設工事で発生した事故事例（挟み込み事故）

### 【事故概要】

道路工事における用排水路の付替えとして、被災者を含む2名の作業員が、ボックスカルバートを挟んで、既設U字溝まで仮設の塩ビ管(φ 200)で繋げる作業を行っていた。塩ビ管をトボックスカルバートに設置する際、挿入側の作業員が塩ビ管を押し込んだところ、受側の被災者が塩ビ管と既設U字溝との間に右手小指を挟み負傷した。

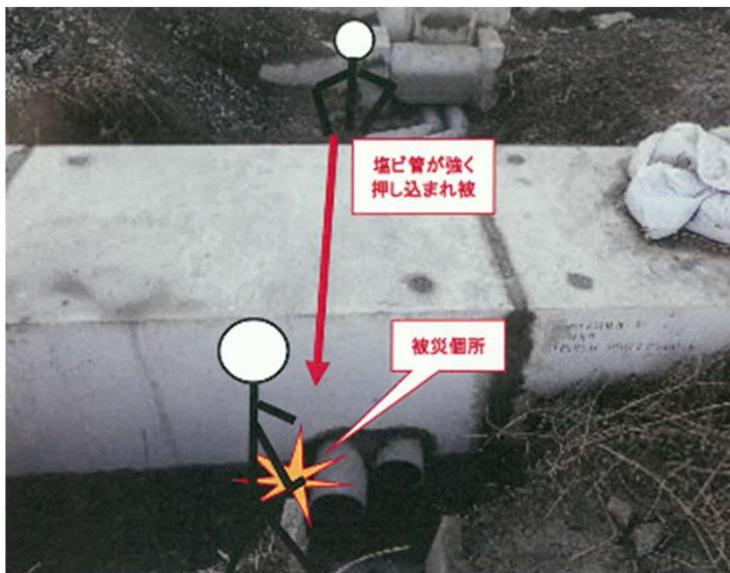
### 【事故原因】

・作業打合せ、KY活動等で指を挟む危険について注意指導がなされていたが、作業の慣れからくる油断から、作業員が声掛けを怠り、塩ビ管を押し込んだことが原因で、被災者は指を挟み負傷した。

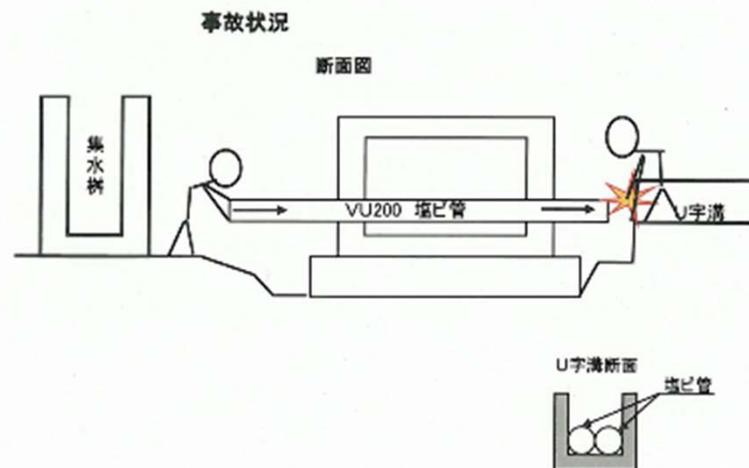
### 【改善対策】

・今回のような作業時には、管の両側など挟まれることのない側面等の位置を持って作業する。  
・慣れた作業であっても、作業員どうしの声掛けを徹底する。  
・上記事項について、安全教育を徹底するとともに、過去の同種施工の事故事例等を、安全教育に活用する。

事故現場状況写真



事故現場状況図



【分類】管渠工、据え付け

【被害状況】業者人身 男1名 40歳 右小指末節開放性骨折(休業8日)

## 令和4年度に建設工事で発生した事故事例（流出事故）

### 【事故概要】

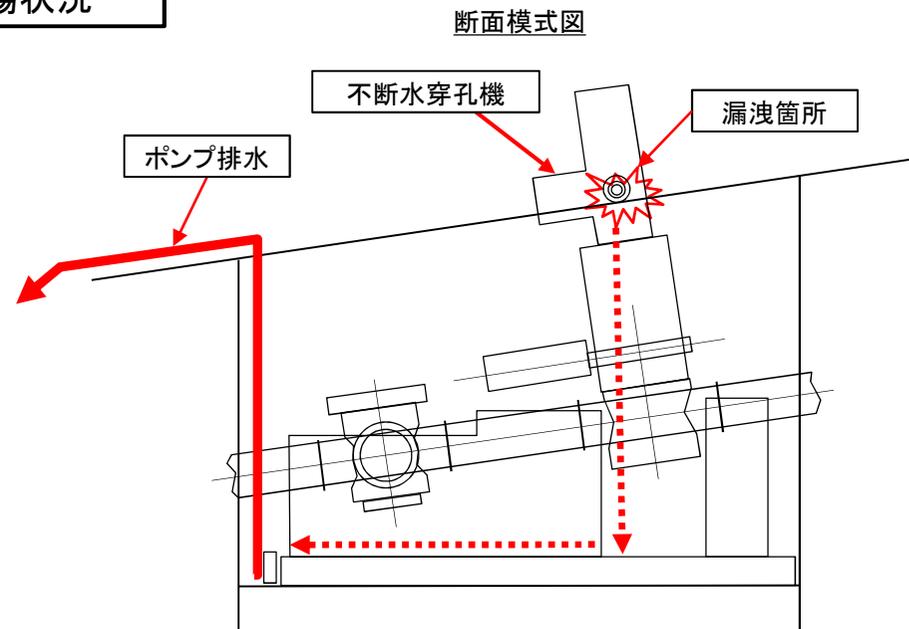
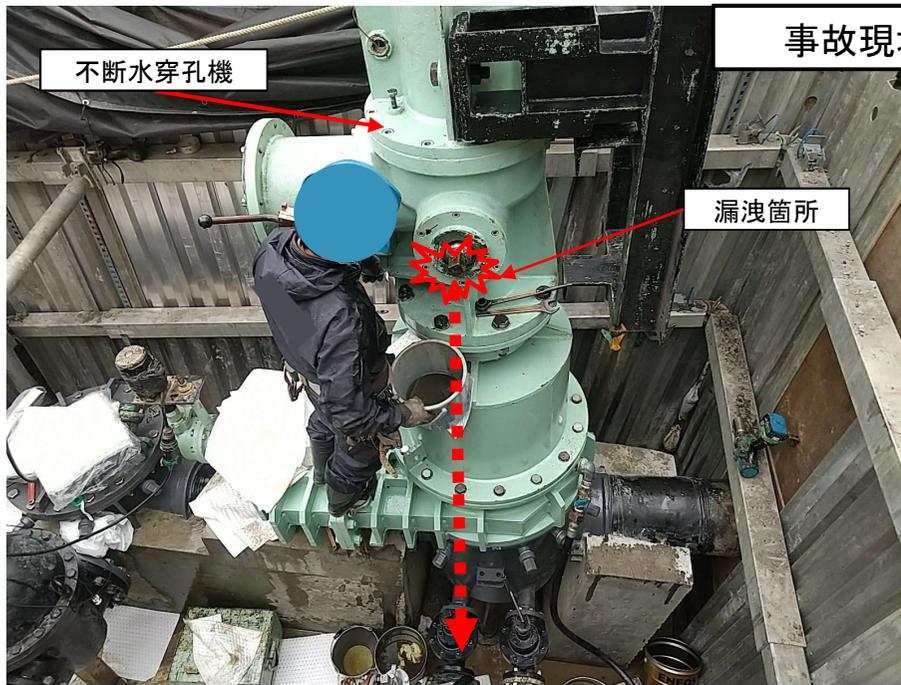
工事用機械（不断水穿孔機）で作業中に機械油が約500mL漏洩し、その一部（少量）が排水ポンプの排水と共に、近くの一級河川へ流出した。

### 【事故原因】

・不十分なエア抜きにより発生したスピンドル内の空気溜りが、オイルの加圧とともに圧縮されパッキンが変形、スピンドル内の圧力が外部オイルに伝搬し、オイルシールが外れオイルが作業構内に漏洩した。

### 【改善対策】

- ・チェック表に空気溜対策の追記
- ・関係者へ空気抜き作業手順の周知
- ・穿孔機からの漏洩防止対策（オイルシール押さえ）を実施
- ・施工中の漏洩確認を圧力計設置により実施
- ・現場にオイル吸着マットを常備
- ・漏洩が発生した場合は、直ぐに排水ポンプの電源を切るよう看板を設置



【分類】管渠工 据付

【被害状況】公衆災害 河川への油流出